

# 祐善寺だより

第29号

発行日

2012年10月11日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生20-2 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



昔は

何もなかったが

何かがあった

今は

何でもあるが

何かがない

藤井 護

## 法句に憶う

住職 岡崎 賢

「万物の霊長」と自らを位置づけてきた人間は、科学技術をめざましく発展させてきました。いずれ、月世界への旅行も夢ではなくなるでしょう。医学の高度な進歩で、ガンも不治の病いではなくなるでしょう。私たちも、そのような技術革新の恩恵にあずかりながら、文化的な生活を享受させていただいてきました。

ところが、平成二十三年三月十一日、東日本を襲った大震災、原発事故が、そのような生活の有様や「万物の霊長」とおごつてきた人間の傲慢さを、鋭く問い直させるきっかけとなってきたことは、文明のいたずらでしようか？人間にとつて最も進んでいない研究は、人間自身についての研究である。或る先達が指摘されていますが、本当に私たち人間は、文明の進歩に逆比例するかのようには、魂のありかは、貧しく虚ろになってきているのではないのでしょうか。その一つの証拠が、我が国では、自殺者十四年連続3万人超という悲しい現実です。

私たちは、人間の親を御縁として、仏様から尊い命をいただいで、仏様から脈々と伝わるいのちの歴史の中に、今、人としてのいのちを生かさせていただいていないのでしょうか。

極度に進歩した物質文明の中にあつて、物を粗末にし、いのちを粗末にし、つながりを希薄にさせていたときに、大震災・原発事故が勃発したのです。この娑婆に、確実なことは何一つ無い、ということを教えられました。そして、見失っていた大事なことに気がつきました。「絆」とか「つながりを生きる」とか、震災後、盛んに使われている言葉です。まさに、法句にあるように、「今は、何でもあるが、何かがない」という「何か」に気が付いたので。昔は、物のない貧しい暮らしの中にあつても、「何か」がありました。人間の魂のありかも、今より豊かだったのではないのでしょうか。自分にとつて、大事な「何か」を探して行く旅が聞法という営みなのです。

楽しかった!

# 祐善寺納涼祭

二〇一二年



「ご先祖様の前で夏の日の楽しい思い出を残そう」を合い言葉に、今年も八月五日(日)午後三時から「祐善寺納涼祭」が盛大に開催されました。今回は三回目ということで、スタッフの皆さんは実に手慣れた様子でてきぱきと作業を進めておられました。しかしお盆前の厳しい暑さだけいかんともしたが、午前中から皆さん汗ふぎのタオルを手にしながらの作業が続きました。お疲れ様でした。ご苦労様でした。

壇家の方々が祐善寺をもり立てるために何としてもこの納涼祭を成功させようと、楽しく力を合わせながら頑張っておられる様子を、ご先祖の皆様方も必ずやにこにこ顔でご覧下さっていたであります。本当に本堂に有り難いことで、頭の下がる思いです。有り難うございました。

本堂の中での開会式に続いて、お子さん方のための練習を兼ねての正

信僞のお勤めや、今回新しい試みである「仏様なぞなぞクイズ」がありました。その後外では、バーベキューや流しそうめん、輪投げ、西瓜割り、ビンゴゲームなどがありました。

以下、楽しかった納涼祭の一部を写真で振りかえることにします。

尚、東日本大震災支援バザーの売上金一万九千円は、東本願寺災害救援本部へお届けしました。皆様のご協力に、心から御礼申し上げます。



暑い中ですが、みんなの汗で成功させましょう。(実行委員会の打合せ会の様子)



冷たくて旨かったです。たくさん食べたので、おなかがポンポコリンになりました。

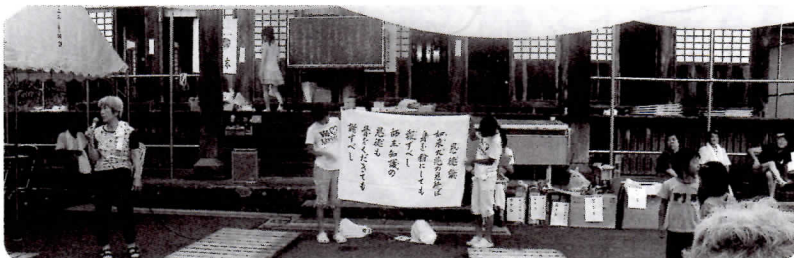
足がしびれたけれどお行儀良くできたので、ご住職さんから褒められました。うれしかったです。



台所の裏方も、暑かったけれど頑張ったのであります。



西瓜割はちょっとだけそれたけど、お母さんが大きな声で応援してくれたのが嬉しかったです。



最後に、みんなで恩徳讃を歌って終わりました。ああ、楽しかった。



こりゃまあ、オモイデナこっちゃんのう。また来年も来てえこっちゃん。おめえらもそう思うやろ。ほやくれの。みんなでもよしてもらおうさ。

# 花だより



## 幸せ

二人が心を一つにして育てれば

壊れやすい愛でも丈夫に育つ

二人して喜び合えば

小さい幸せにも花が咲く

幸せの花が見えるのは

二人だけかもしれない

でも それでいいのだ

二人に見えればそれで十分

幸せは二人が心を一つにして

壊れやすい愛を育てて花を咲かせ

可愛い花を愛でながら

二人で喜び合うもの

そんな幸せの花を育てられる二人に

私はなりたい

(G)



## 平成24年度護持費の志納よろしくお願いします

祐善寺を永代に亙って護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のおとりご志納下さいますようお願いいたします。

### ◇護持費の使途

・報恩講の厳修費や教化事業の実施

・本堂を守る火災保険や環境維持費用

・本山相続講、福井教区賦課金等

・その他

### ◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

### ◇志納方法

・寺へ直接志納する

・秋まわりや法事で住職が貴

家を訪問の際に志納する

・地区の役員さんに志納する

・郵便振替口座

(〇〇七七〇―九一三〇七二一

・加入者〓祐善寺)

へ振り込む

### ◇志納期限

毎年十一月末日

# 祐善寺 前坊守上寿 越前町長が慶祝訪問



祐善寺のご住職のお母様である岡崎愛子様は、今年満百歳をお迎えになりました。とても、とても嬉しいことです。お母様は、昭和二十八年にご住職を若くして亡くされたとお聞きしました。坊守としてお寺をしつかりと守っていく事、人の幼いお子さんを育てていく事、その他にも私たちには、わからないお寺さんの事柄に、心を痛められた事と思います。この間どのようなお



内閣総理大臣からのお祝い状を抱える

心で、どのようなお気持ちでお過ごしになられたのでしょうか。ご苦労の多い日々であったであろうお母様ですが、そのような事を少しも感じさせないのです。気品があり、穏やかで、優しく声をかけてくださるので、私たちは幸せな気持ちになれます。その場におられるだけで和みます。

9月5日に「祐善寺前坊守上寿お祝い会」が開かれました。玄関にはおめでたい紫の幕が張られ、金屏風の前には、華やかなお花が生けられ、幸せいっぱいのお会場でした。関町長様がお祝いにきてくださり、お母様はにこにこ笑顔で懇談されていました。お仏壇の前で「上寿お祝い法会」焼香、会食となりました。「今とても幸せです」と何度も何度も笑顔で話されるお母様のお姿に、私たちも幸せをいっぱい戴きました。心に深く残ったお祝い会でした。ありがとうございました。(桑原文子)



関越前町長より百歳の記念品をいただく前坊守

## おくやみ

木村正幸様(越前町真木)には、平成二十四年七月二十三日、行年七十九歳にて往生の素懐を遂げられました。ご生前のご功勞に、心より深謝申し上げます。

## 平成二十四年度の 年忌法要を お勤め下さい！

本年度の年忌は左記のとおりでございますので、貴家の過去帳等を御確認していただき、皆様にとらわれない御先祖様の年忌法要を是非、勤めて下さいますよう、お願いいたします。

- 百回忌 大正二年没
- 五十回忌 昭和三十八年没
- 三十三回忌 昭和五十五年没
- 二十五回忌 昭和六十三年没
- 十七回忌 平成八年没
- 十三回忌 平成十二年没
- 七回忌 平成十八年没
- 三回忌 平成二十二年没
- 一周忌 平成二十三年没

第4回

御伝鈔(上)講座

是すなわち、世くだり人つたなくして、難行の小路まよいやすきによりて、易行の大道におもむかんとなり。

これは、すなわち、世の中が末法となり、人は愚かであり、難行の狭い路は迷いやすいので、易行の大道に進もうとして

真宗紹隆の大祖聖人、ことに宗の淵源をつくし、教の理致をきわめて、これをのべ給うに、たちどころに他力攝生の旨趣を受得し、飽まで、凡夫直入の真心を決定し、ましましけり。

真宗を受け継ぎ、盛んにして下さった法然上人は、特に宗教の深さと細かさを尽くしきわめて、これを広めて下さったので、たちまちに弥陀の願力が摂めとって下さる往生の道をお受けして、あくまで、凡夫がただちに往生を遂げる真実の心を決定するに至られたのです。

第三段

建仁三年辛酉 四月五日夜寅時、聖人夢の告まします。

建仁三年(辛酉) 四月五日の夜寅(午前四時)の頃、聖人に夢のお告げがありました。

彼の『記』にいわく、六角堂の救世菩薩、顔容端嚴の聖僧の形を示現して、白衲の袈裟を着せしめ、広大な白蓮華に端坐して、善信に告命してのたまわく、

記録によれば、六角堂の救世菩薩が、おごそかな顔立ちの聖僧の形相にて現れまして、白い袈裟をお着けになられて、広大な白蓮華にきちんとお座りになられて、善信に命じられました。

行者宿報設女犯、我成玉女身被犯、一生之間能狂戯、臨終引導生極楽」文。

行者よ、たとえあなたが宿縁によつて、女犯の罪を犯そうとも、私が美しい女性の身となつて、その女犯の罪を被り、あなたの生涯を讃嘆し、いのちが終わる時に、極楽へ導いて行こう。

「御伝鈔」(本願寺聖人伝絵)とは

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人のご生涯を絵詞に著したもので、詞は、親鸞聖人の曾孫である覚如上人(本願寺第三世)の撰述です。親鸞聖人の没後・三十三年の永仁三年(一二九五年)に十三段からなる初稿本が作られました。建武三年(一二三六年)の戦火により本願寺と共に、焼失してしまいました。康永二年(一二九六年)に書き直されるのを機に、御伝鈔と御絵伝を別仕立てにされ、上巻八段・下巻七段の十五段と二段増補されました。

詞の部分「御伝鈔」、絵の部分「御絵伝」と呼び、各寺院の報恩講において「御絵伝」を余間に奉掛し、厳肅に「御伝鈔」が拝読されます。

其の25

仏事 一口メモ

葬儀

本来、浄土真宗の葬儀式は、まず自宅のお内仏(仏壇)の前で出棺の勤行を行ったのち、参列者が行列を組んで葬場へ向かい(これを野辺送りといいます)、そこで葬儀のお勤めをします。そして、最後のお別れののち火葬したものです。

しかし、今日では、出棺の勤行と葬場の勤行とを同じ式場で、時刻を定めて(例えば、「葬儀・告別式〇時〇時」というふうに)つづけて行う「告別式」形式が一般的になっています。

社葬などの大規模な葬儀では、先に葬儀を営み、別に日時を定めて告別式を行うこともあるようです。告別式は、文字どおり個人とお別れを告げる儀式といえます。

葬儀に参列しますと、「ご冥福をお祈りします」とか「安らかに眠り下さい」という言葉をよく耳にします。

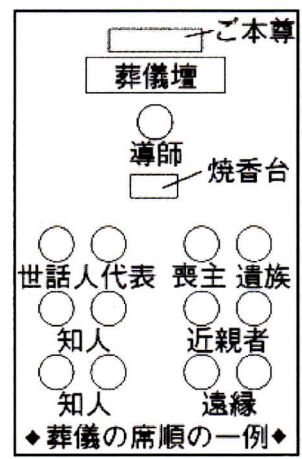
身近な人の死を、冥福(死後の幸福)を祈ることで、あるいは安らかに眠らせることで、本当に亡き人に応えることになるのでしょうか。

浄土真宗の葬儀は、葬儀に参列した

一人ひとり、生きる意味を仏さまの教えに問いたずね、真実の教えにあつた仏事です。仏さまの大いなるいのちのはたらきを依り所として、生まれたことの意味を感じ、生きていくことに心から喜べる生活こそが亡き人に応えることなのです。

さて、いよいよ葬儀の時間が迫ってきました。葬儀の次第について、簡略に申しますと、

- ① 遺族・親戚・参列者着座
  - ② 導師(住職)入場
  - ③ 開式の辞・総礼
  - ④ 勤行
  - ⑤ 総礼・閉式の辞
  - ⑥ 導師退場
- という形になります。



④の勤行の間に、導師の焼香、弔辞等があります。勤行中、喪主・遺族・近親者・遠縁の順に焼香を行います。一般葬者の焼香は、喪主・遺族等につづいて行うか、別の焼香台で行います。お参りには数珠を忘れないようにしましょう。

弔電は必ずしも披露する必要はありませんが、披露する場合は勤行後に行うべきでしょう。

(サンガ)より

# お知らせ



## 報恩講御案内

十一月二日(金)

日中 午前十時

御齋 午前十一時半

逮夜 午後一時半

満座 午後六時半

布教 出雲路善公師

つきましては、親鸞聖人の御遺徳を偲び、右の通り報恩講を厳修いたしますので、万障お繰り合わせの上、ご家族、ご近所、ご法友お誘い合わせの上、何卒ご参詣下さいますよう、ご案内申し上げます。

福井教区

親鸞聖人七五〇回

御遠忌記念旅行

参加者募集!

「親鸞聖人のご旧跡を訪ねて」

◆実施日

第1班 平成25年5月21日(火)～23日(木)

第2班 6月4日(火)～6日(木)

◆行程

福井～新潟・居多ヶ浜～茨城・小島草庵跡～筑波山麓温泉・泊～茨城・稲田西念寺～箱根湯本温泉・泊～箱根・別れ石～箱根神社～福井

◆募集人員

各班 100名(バス3台)

◆参加費

45,000円

◆申込締切

12月10日(月)(定員になり次第締切)

◆申込方法

参加ご希望の方は、祐善寺までお申し出下さい。

真宗大谷派福井教区では、平成27年4月に親鸞聖人七五〇回御遠忌を、福井別院で厳修する予定になりました。

このたび、福井教区御遠忌記念事業の一環として、右の通り、「親鸞聖人のご旧跡を訪ねて」というテーマのもと、記念旅行が開催されます。このご縁に、ご門徒の皆様にご参加をいただきたく、御案内申し上げます。

## ボランティア募集!!

### 雪囲い作業奉仕

とき 11月11日(日)

8時集合(午前中)

持物 鎌(カッター)、軍手、合羽(悪天時)等

昼食 用意します。

傷害保険 加入します。

作業内容

雪囲い作業は、高所での作業ばかりでなく、高所が苦手な方は、下で雪囲いシートのヒモ結びや資材運び等の作業もありますので、ご都合のつく方は、是非ご協力をお願いします。

お申し込み

お手数ながら、前日までに寺までご連絡下さい。

皆様、どうかよろしくお願致します。



## 編集後記

★前坊守様の上寿を心よりお祝い申し上げます。

★先日、越前町関敬信町長の慶祝訪問を受け、祐善寺前坊守の上寿の祝いと記念品授与がありました。関町長から、ますますお元気で頑張ってください、との励ましの言葉をかけていただき、同席者一同、感激の一言でした。

住職が早く亡くなられ、祐善寺の坊守として、また六人の子どもさんたちを立派に育てられ、筆舌に尽くせないご苦労があったことと想像し、門徒としても、感激の極みです。

★納涼祭も三年目。どうやら板についてきた感じがします。実行委員の若い方々、何かと段取りして楽しみながら進行していただいて、頼もしいかぎりです。納涼祭に参加して下さいました皆さん、ありがとうございます。

★政局は、総選挙が近づいてまいりました。今回は、二大政党の対決というところで、民主党が驚くほど伸びましたが、はたして今回はどうなることやら。

★報恩講にお参り下さい。

(上)

